

今日の説教のポイント<ヨハネによる福音書 16 章 16～33 節>

①受難週に考えるべきことは、主の御苦しみだけではない！

イエス様が鞭打たれ、血を流し、十字架上で苦しまれる姿に力を入れ、見る者に「私たちのために、こんなにひどい目に遭われたのだ」と強い印象を抱かせる映画があります。しかし、聖書自体はむしろそのように描いていないのが特徴なのです。なぜでしょうか？

②十字架の死に神が込められた多くの内容をしっかり聞き取ること！

ヨハネ福音書 14～16 章を通して、イエス様が弟子たちに十字架の出来事に備え、悟るために語られた内容を聞いてきました。そこでは、「私たちのためにこんな惨いことに」と思うだけに終わることない、十字架の死に神様が込められた色々な内容が語られていました。1) もう少ししたら私を見なくなる（死）が、またもう少ししたら私を見る（復活）こと(16:16-22)。さらに、2) イエス様の後に弁護者（聖霊）が父なる神様から弟子たちに遣わされて来て、それがイエス様の全ての意味を分からせてくれること(14:15-16, 25-26, 15:26, 16:4-15)。3) これによって、弟子たちが、そして私たちも、イエス様を受け入れることによって、もう、いつ、どんな時にも、自分は一人ではなく、神様が共にいて下さるのだ、と思って生きて行けるようになること(16:22, 27)！

③苦しみや悲しみはそれで終わらない — 聖書から教えられたこと

旧約聖書には、人間の罪によって訪れる大きな苦しみや「産みの苦しみ」として多く描かれています(イザヤ 13:8, 21:3, ホセア 13:13)。しかし、主イエスはここでは信仰者に訪れる苦しみや悲しみを、同じ産みの苦しみでも、その後に子が与えられた喜びで吹き飛ばしてしまう苦しみとして語られています。この言葉を胸に刻んで生きている信仰者は多いはずです。私たちの苦しみや悲しみに対する考え方も、十字架で死に三日後に復活されたイエス様の意味を知る時に確かに変えられて行くのです。

④苦難が気にならなくなる秘訣は、主の平和（平安）を手に入れること

「これらのことを話したのは、あなたがたが私によって平和を得るためである」(33)。ここで大事なことは、得られる「平和（平安）」は自分で勝手に欲する平和ではなくて「主の平和（平安）」であることです。苦難を苦難としなくなるのは、何が真の平和（平安）であるか、その考え方が変えられる時です。人の目を気にするのではなく、神様のことをいつも思って生きればよい — 間違いなく主の平安が得られる方法です！